

令和7年度 岡山県立岡山操山高等学校 学校評価書

校長 藤岡隆幸 

1 自己評価

I 評価結果 (別紙参照)

II 分析・改善方策

(1) 【ワールド・ワイド・ラーニング・コンソーシアム構築支援事業による研究成果の継承・発展】

[分析]

- SOZAN国際塾
 - 国際交流：関西学院大学でのグローバル合宿や、スタンフォード大学 MBA 院生との交流会を実施。
 - 研究成果・社会実装：「米すくりーむ」や廃棄布を活用した商品開発・販売、遺伝カードゲームの開発など、メディア注目度の高いアウトプットを創出。
 - コンテスト実績：全国高校生フォーラムで上位9校（奨励賞）に選出されたほか、関西学院大学「探究の集い」での決勝進出など、対外的に高く評価された。
- イベント・留学関係
 - 国際交流・協力：岡山県韓国慶尚南道青少年交流事業、JICA 高校生国際協力体験プログラムに各1名が参加。
 - 研究支援：ノートルダム清心女子大学主催の相談会に2年次より2班が参加し、知見を深めた。
- 未来航路（総合的な探究の時間）
 - 1年次：岡山大学と連携した「学部別講演会」や、DXハイスクール支援による「データサイエンス講座」を実施。SOZAN STEAM（本校の教科横断型授業）7講座の展開により、学問・職業への視野を拡大。
 - 2年次：大学教員の指導助言を通じて、研究の論理的構成力や基礎知識を習得。校外発表や外部機関との連携を活性化。
 - 3年次：外部機関との意見交換や中間発表を継続。オニバス研究グループが農林水産省主催「みどり戦略学生チャレンジ」へエントリー。

[改善方策]

- 探究活動の深化と、校外のコンテスト等へのさらなる積極的な参加を呼びかける。
- 校外の各種イベント等の情報、留学に関する情報を生徒に積極的に配信し、参加を促す。

(2) 【進路実現】

[分析]

- 進路指導・キャリア形成
 - 学年別アプローチ：1年：進路講演会や模試事後指導に加え、他校との交流（高い志醸成事業）による意識向上。2年：医学科・難関大志望者集会の充実。保護者への情報発信による理解促進。3年：個別面談によるメンタルケアと進路情報の提供。教員間での詳細

な検討会による情報共有。

● 志望者数（最難関大学）：

東京大学：1年 9名 / 2年 10名 / 3年 3名

京都大学：1年 17名 / 2年 16名 / 3年 9名

医学部医学科：1年 14名 / 2年 18名 / 3年 13名

■ 図書室運営・図書委員会活動

● 施設運用： 大規模改修に伴う移転を計画通り完遂。仮図書室での貸出数は計 21,312 冊 と健闘。オンライン予約・リクエストシステムの活用による利便性向上。

● 啓発・イベント： テーマ展示（10代の海外文学等）や文化祭企画（ビブリオバトル等）の実施。校外活動として「文学歴史散歩（福山市）」を実施。「図書館便り」の定期発行（1月までに10号）とWebでの活動報告（107件）。

■ 教育課程の編成・改訂

● 令和9年度からの変更（承認済）： 3年「国語・地歴」、2年「文系数学」の教育課程を変更。

● 令和9年度に向けた新設・検討： 「情報Ⅱ」の新設について高校教育課と協議・決定。1年「理科基礎」の検討を継続。

[改善方策]

■ 1, 2年生の希望者対象に、岡山大学工学部の院生の話を聞く会を設け、大学卒業後のことをイメージする助けとする。

■ 学校推薦型選抜や総合型選抜の指導の記録を保存し、今後の指導に活かす。

■ 生徒・教職員に向けて学校図書館システムの機能を周知し利用促進を図る。

■ 中高連携を進め、生徒の図書委員会活動の充実を図る。

■ 1年「理科基礎・公共」の教育課程の検討を継続する。

■ 観点別評価と5段階評定の在り方の共通理解を図る。

(3) 【生徒に対する総合的な支援の推進】

[分析]

■ 学校行事・生徒会活動

● 行事の実施： 生徒会企画による冬季球技大会や「3年生を送る会」を実施。

● 社会貢献： 1・2年生による学校周辺の清掃活動を継続。

● 学校評価： 行事の充実度について、生徒（95.4%）、保護者（89.5%）、教職員（94.3%）がいずれも極めて高い肯定回答。

● 規範意識： 社会ルールやマナーの学びについて、生徒・教職員ともに約9割が肯定。

■ 生徒支援・相談体制

● 組織運営： 生徒支援委員会を計11回開催予定。中高連携や遠隔授業の審議を推進。

● 専門職の活用： スクールカウンセラーへによる教育相談を24回実施。生徒、保護者のニーズが高く、ケース会議による情報共有を徹底。スクールソーシャルワーカーによる家庭訪問や外部機関連携を拡充。

● 初期対応： 心の健康観察「シャボテンログ」の運用開始（入力率に課題）。相談体制への生徒満足度が前年より向上。

■ 保健管理・教育

● 教育相談： 相談しやすい環境づくりにより、肯定回答が対前年比で上昇（生徒78%、保護者74%、教職員77%）。

● 講演会・LHR： 2年生：精神科校医による講演（88%が有用と回答）、保健委員による「心の健康」授業。3年生：外部講師による性教育講演（リプロダクティブ・ヘルス/ライツ）。1年生：生活習慣をテーマとした保健LHR。

- 人権教育・教職員研修
 - 教職員研修：外部講師を招き「相談の基本」と「チーム支援」をテーマに実施。
 - 人権 LHR：「岡山いのちの電話協会」による講演会を実施。自己理解と他者尊重，課題中心の生き方について啓発。
- 安全管理・防災
 - 施設管理：月 1 回の安全点検と事務室連携による修繕を徹底。
 - 防災・防犯：防災訓練を実施し，避難時間を測定。不審者対応の職員研修も完遂。
- いじめ防止
 - 現状把握：アンケートの結果，重大事案はなし。保護者の 70%が学校の指導を肯定。
 - 啓発実績：「岡山県児童生徒いじめ防止ポスター」にて，応募 2 点中 1 点が優秀賞，1 点が入選を受賞。

[改善方策]

- 体育祭・文化祭のさらなる充実を図るため，生徒の企画などを推進する
- 交通・非行防止 LHR を 1 学期の早い時期に実施し，生徒の規範意識を高める
- 中高連携とシャボテンログ活用を推進し，支援の初期対応を強化する。
- 併設中学校の自立応援室設置に伴い，高校生の利用のあり方を検討する。
- 心身の不調を訴える生徒について，本人の困り感を丁寧に聞き取り，学校内外の関係機関と協議しながら対応する。
- 保健委員による「心の健康」授業では，生徒が実践できる内容を取り入れる。
- 人権 LHR 講演会後の生徒の感想文の記入について，R7 年度は，1000 字程度の記入を指示したが，内容的なまとまりから，600～800 字でよいと考える。また，Chromebook を利用させたためか生成 AI を利用した生徒が目立ったため，自力で書くよう指示したい。
- ハイパーQU の実施後の，結果報告は教員にとっては意義があったが，費用負担する生徒にとってはあまり実施の意義が感じられないようである。生徒面談において，学校生活の充実の項目を設定するなど，資料を有効利用することで還元していきたい。
- 避難訓練の際に，事前学習として災害別の危険箇所の把握と避難経路の確認を実施する。
- 教員向け不審者対応訓練の際に。教室に不審者が侵入したて来たときの対応を訓練する。
- (いじめ対策委員会) いじめについて考える週間に，いじめ防止ポスター・標語の応募を呼びかけ，さらなる啓発につなげる
- いじめのないクラスづくりを促進する

(4) 【開かれた学校づくりの推進】

[分析]

- 情報発信・広報実績
 - 投稿頻度：総投稿数 122 件。定期的かつ順調な発信を継続。
 - Facebook：「いいね」100 件超えの投稿が 43 回。コンテンツに対して高い関心と評価を獲得。
 - Instagram：フォロワー数：1,815 名（4 月より 676 名増加）。リーチ力：2 学期以降，1 投稿あたりの平均再生数が 1 万～2 万回に到達し，認知度が大幅に向上。
- 公式 Web サイトの整備
 - データの刷新：過去の古い情報を概ね更新完了し，情報の正確性と鮮度を確保。
- 保護者からの評価
 - 学校評価アンケート：「HP 等での情報発信が効果的」との肯定的回答が 83% に達し，高い満足度を記録。

[改善方策]

- SNS での情報発信の頻度と内容を，引き続き充実させていく。

- ホームページを、利用者が必要な情報を入手しやすい仕様に充実させていく。

(5) 【組織の活性化・業務の効率化の推進, 教職員の健康の維持】

[分析]

■ 美化・清掃関連

- 実施状況：清掃参加率，美化委員の当番実施率，エアコンフィルター清掃ともに約8割で推移。
- 点検業務：前期の清掃点検および用具チェックは計画通り確実に実施。
- 課題：各項目の実施率は高いものの，掲げた目標数値の完全達成には至っていない。

■ 教務関連

- 成績処理：昨年度の課題を受け日程に余裕を持たせたが，第3回学力テストまでに2件のミスが発生。
- ICT活用：保護者対象講演会・科目選択説明会のオンライン化（動画配信・さくら連絡網活用）を完遂。
- 運営・環境：印刷室等の引越しを完了。毎週の教務課会議により，業務の見通しと確実な遂行を維持。

■ 情報・DX推進関連

- 校内システム：ネットワーク台帳の整理，ICT機器の適宜アプデを実施。生徒用掲示板の運用により，HR活動の効率化と連絡徹底を実現。
- 教育事業：岡山大連携のDS（データサイエンス）講座を1年生に実施。来年度に向けた計画改善が課題。
- 教員研修・研究：NotebookLM勉強会の開催（9名参加）や，DXハイスクール先進校の視察を実施。
- 課題：DXルーム設営に向けた知見共有と，校内ニーズに即した教職員向け研修の具体化。

[改善方策]

- エアコンフィルター清掃徹底のため，事前に実施日決定や連絡呼びかけを逐一行うことによる改善をはかる。
- 清掃徹底のための時間確保・人員確保とワックス掛けの定期的な実施による改善をはかる。
- 成績処理の日程の再検討をし，成績処理のミスの根絶を図る。
- DXルームの設営プロセス自体をオープンにし，各教科のニーズを反映させた機材配置を行う。「一部の詳しい人」だけが動く状態を解消し，組織全体のDXリテラシーを底上げする。
- 掲示板運用のさらなる自動化や，生成AIを用いた文書作成・教材準備の効率化など教員の「持ち帰り仕事」を減らすための具体例を共有するワークショップを定期開催する。

2 学校関係者評価委員名

坂入 信也（岡山大学教育推進機構 教授）
吉野 隆弘（株式会社ベネッセコーポレーション 学校カンパニー変革本部 副本部長）
渡部 義仁（株式会社太陽堂 代表取締役）
服部 和博（原尾島町内会長 宇野学区連合町内会長）
橋本 玲子（PTA 副会長）
黒崎 直美（PTA 副会長）
小林 稔（PTA 副会長）

3 学校関係者評価

- 中高一貫教育における連携
 - 中学生にとっては高校生の姿が将来の展望につながる。高校生側には、中学生への働きかけを通じた「アウトプットの場」の提供などが期待されるとの意見が出された。
- 進路指導
 - 探究学習：必ずしも直接的なキャリア教育に結びつける必要はなく、生徒が興味のあることを深く探究する姿勢を重視すべきとの意見が出された。
 - 国際化への視点：「将来国際的に活動したい」という指標については、近年の地元志向の高まりを受け、必ずしも海外留学生数等の数値を追う必要はないとの指摘があった。
- 広報活動と SNS 活用
 - 情報発信の強化：Instagram 等の SNS 活用は評価されているが、HP 情報の更新頻度向上が求められている。
 - SNS 運用の工夫：検索性を高めるためのハッシュタグ活用や、画像内への文字入れなどの改善案が提示された。
- 学校運営と社会情勢への対応
 - 高校無償化の影響：私立高校への生徒流出が懸念される。特に中山間地域などの学校への影響が危惧されるとの意見が出された。
- 安全・地域・その他
 - 交通安全：自転車の道路交通法改正（原則車道通行）に伴い、保護者から安全面への懸念が示された。

4 来年度の重点取組

- (1) WWL 事業終了後の自走
 - 探究活動の深化と、校外のコンテスト等へのさらなる積極的な参加を呼びかける。
- (2) 進路実現
 - 学問研究と大学研究の重要性を理解させ、オープンキャンパスへの積極的な参加を呼びかけ、志望校に対する強い思いを持たせる。
 - 教科学習や未来航路（探究的な学習）、進路進学対策などに必要な資料を充実させる。
 - 指導と評価の一体化の体現を図り、生徒が主体的に学びに向かい、確かな学力をつけるような環境を作る。
- (3) 生徒に対する総合的な支援の推進
 - 文化祭・体育祭などの生徒会活動の充実を図る。
 - 中高連携とシャボテンログ活用を推進し、支援の初期対応を強化する。
 - 保健委員による集団保健指導の充実を図り、自己管理能力の育成を目指す。
 - SNS にかかわるトラブル等に関する人権教育は、生徒も小中学校の段階で何らかの指導を受けているが、十分とは言えないと考えられる。専門的な講師に講演を依頼し、「生徒を加害者にも被害者にも傍観者にもさせない教育」の更なる充実を図りたい。
 - 毎月、安全点検を実施し、異常箇所について事務室と連携して対応する。
 - いじめについて考える週間に、いじめ防止ポスター・標語の募集を行い、いじめ防止を啓発する。
- (4) 開かれた学校づくりの推進
 - SNS での情報発信を、より効果的なものに充実させていく。
- (5) 組織の活性化・業務の効率化の推進、教職員の健康の維持

- 空調機器・加湿機器の導入による教室整備を行うことによる改善をはかる。（厚生課）
- 成績処理，科目選択などの業務を確実にこなせるよう日程を見直す。
- 新設の DX ルームを拠点に，教職員が AI 活用や情報共有のノウハウを出し合う「共創型」の校務標準化を推進する。効率化により捻出した時間を生徒への伴走支援や教職員の健康維持に充て，組織全体の活性化と持続可能な教育体制の構築を図る。